

# 京交山岳部報

No.314

'78 12月号

〔第1197回例会〕

もう一度

## 依遅ヶ尾山

(R)

日 時 12月2日(土) 早朝出発予定  
コ ー ス 京都一福知山一与謝峠一峰山一矢畑…依遅ヶ尾山 1/5万図「納野」  
担 当 者 九条 田中忠久(TEL 351) 申込み〆切 1日(金)

〔第1198回例会〕

京都府下30山 その19

## 地藏杉

(T)

日 時 12月10日(日) 6.30 御室仁和寺前集合  
コ ー ス 京都一笠峠一静原一三壑一東谷川…地藏杉 1/2.5万図「島」  
担 当 者 梅津 吉田 武(TEL 342) 集会(7日)にて打合せ  
備 考 北山クラブレポート集シリーズ№1に「地藏杉」が今西先生によって次のように紹介されています。「北条の名峰、長老ヶ岳916mと頭巾山871mとをつなぐ山脈上にあつて、中間よりはやゝ長老に近く位置している。…弁当ガラもジュースのカンも一つも見あたらぬ頂上、アラレがさかんに降る。長老が立派だ。…久しくねらっていた山で、しかも期待にそむかぬよい山であった。」1961年4月2日に登頂されたものです。

〔第1199回例会〕

納山祭

## 湖南アルプス

(R)

日 時 12月23日(土)~24日(日)  
コ ー ス 京都一石山一枝町…迎不動(幕営)…太神山  
担 当 者 九条 鷲見、広瀬(TEL 358) 申込み〆切 22日(金)  
備 考 去年予定していましたが雨で変更して実行出来なかったので再行するものです。クリスマスイブを大いに山で楽しみませんか。



## 比良山は泣いている

宮 後 正 樹

前日の雨のせい、今年の立冬は最低気温8.5°Cと暖かい冬の入りだった。しかしすでに大山や伊吹山には初雪が来て、冬の使者、鴨川のユリカモメも例年より半月も早く姿をあらわしその数も日に日に多くなって来たようである。

冬到来を待って忙しくなるのは近郊のスキー場だが、先日ショッキングなニュースだったのが比良山の八幡の滝一帯が土砂の流出で埋まり谷の水も大腸菌で汚染され飲料水としても不適当であることが明らかになったという。しかもその元凶が比良山スキー場で、はき出される生ゴミによるもので、スキー場自身もゴミの不法投棄を認め回収作業に乗り出したという。中には消火器や風呂ガマまでが含まれているというからあきれた限りである。

また不法投棄が3年で時効になるという現在の法制度そのものも問題で、もっと厳重な取締りと罰則を課すべきではないか。汚染された自然や埋まった滝つぼは元の姿に回復するのに長い時間がかかり、また回復は望めない場合もあり待るのである。比良は泣いている。スキー場経営者は比良に限らず十分に認識を新たにして自然景観の保持に努めてほしいものである。

比良山といえば、比良の主、角倉太郎さんが先日湫栗山からの下山途中、白滝谷で足を滑べらせ谷に転落、肋骨々折でその骨が肺にささるといって重傷を負われたと聞きびっくりした。角倉氏自身何十年という比良歩きの中で初めての樁筆だけに残念がっておられるが、何でも当日はびわ湖パレからハイキングの一行に京都岳連の自然保護委員会のメンバーがその指導に当たっておられたところ、下山中のご老人の安全をかばっていて足元が滑りバウンドしながら5~6m谷に転落され、激痛をこらえて穴のあいた片肺の状態で坊村までの谷道を6時間半もかかり頑張って歩かれたという。

普通の人なら24時間で肺が萎縮して機能回復がむづかしいといわれるのに、角倉氏は37時間後に手術され山場を越えて目下療養中である。これも長年の山登りのおかげと喜こんでおられる。この貴重な経験を今後の山の指導に生かして行きたいと角倉氏らしい謙虚さでこの遭難を反省しておられた。

比良山のどこの道にどんな石があるかまで知り尽くされた角倉さんにしてこの失策、誠にお気の毒なことであり、比良山も泣いていることだろう。どうか1日も早いご回復をお祈りする次第である。

(53. 11. 14)

### 。 今 月 の 集 会 。

日 時 12月7日(木)

19.00より 下鴨寮

今西錦司先生

## 日本1000山登頂を祝う

宮 後 正 樹

先生が日本の山500山に登頂されたと聞いたのが1968年、昭和43年だったから頂度今年で10年になる。その間先生は著作や各地の講演の合間、いや山ほりの合間で著作や講演だったかも知れないがとにかくせつと山に登り続けられ、昭和48年には700山を達成され京都友会館で学友、友人たちの祝賀会が開かれたのもついでこの間である。先生の「日本山岳研究」はこの記念に出版された。

そうして昨年正月に900山を登られこの7月30日比良の地蔵山△790mで999山目を迎えられ、めでたく去る8月13日午前10時45分、大峰山脈釈迦ヶ岳△1799.6mの大きな等三角点にタッチされ、みごと日本1000山の登頂を果されたのである。加えて今年は喜寿を迎えられおめでたい限りである。

この快挙を祝う前夜祭は大峰山系前鬼の宿坊、小仲坊で行われた。何しろ車も上らない不便なところで収容人員も限られ参加者はごく親しい人たちばかりだったが、速く東京からの美女も加えて大垣、岐阜、京都、地元新宮山の会の方達など総勢50人が集った。朝から設営のために御馳走を氷詰めでポッカされ料理人中西 興氏が多忙の中をご協力いただき十津川の釣名人浦東富定氏に頼んでもらってフメノウオ50匹が用意されるなど新宮山の会の面々には大変にお世話になった。

朝9時前に京都を出発し吉野川の入口で昼食を済ませ前鬼口から険しい前鬼林道をつめ素暗い不動滝を眺めながら狭いトンネルを二つぐった上で車止めとなっていた。30分余りで宿坊小仲坊につく。「歓迎 今西錦司先生千山登頂」と書かれた大きな横幕が正門に張られ玉筒、川島、戸石、高村氏らのお出迎えをうけた。広間の床の間にももう1枚の歓迎幕が張られており樽酒をはじめお酒、ウイスキーなどが一ぱい寄せられていた。京都からもカンバイ用にと灘からとり寄せた白鹿の樽一合升に「日本1000山登山記念」と先生のサイン入りで50ヶを贈る。この歓迎幕は新宮の信谷さんがわざわざ多治見市の書家三宅英二氏に依頼され寄せられた揮毫とのことであった。

今西先生らのご到着を拍手で迎え、一合升に「大峰山奥駈修行 釈迦ヶ岳」「前鬼山 小仲坊」の焼印を押して下さりいよいよ祝宴となる。先生の歌が早々から飛び出し、中前さんの踊りや戸石さんの裸踊りまであって小仲坊の当主五鬼助義价ごきよれともさんも加わってのラインダンスに遅くまで賑やかな前夜祭であった。

翌朝は、まだ明けやらぬ5時起床、5時30分いよいよ先生の1000山登頂への出発である。取材のため前夜からかけつけたMBS毎日テレビのライトが既に何十山もの土を踏みしめて来た先生の登山靴を写し出していた。また朝日、毎日の新聞社をはじめ山と溪谷社や週刊朝日の記者がそれぞれ同行し密着取材とカメラの放列を敷き一言一句を取材していた。ブナ・トチなどの大樹の葉もれに朝日が流れる頃、まっ二つに割れた二つ石の立つ急坂で休憩、高さ10mほどの岩柱はセイタ

カ童子、コンガラ童子と呼ばれている。

熊の水場という河原で温かいミソ汁を頂戴して朝食をとる。先生はMBSの「いままでの山のうち最も印象に残っている山は」のインタビューに「1000も登ったらもう忘れてしまう」と答えておられたが、おそらくどの山も忘れられない思い出の山ばかりであろう。さらに急な登りをゆっくりとしたペースで一步一步、太古の風が吹き抜ける太古の辻の稜上に達す。先生曰く「汗とウソコで酒が抜けて気分爽快ですわ」と軽口も飛び出す。とは週刊朝日の記事である。また麻のハオリ・ハカマに中国製のミノ笠、背負子に籠のようなボックスをかつぎ、足元は白足袋に勿論ワラジがけという明治時代のいでたちの松浦漢々斎氏のクラシックスタイルがこの太古の辻に最もよく似合っていた。

大日岳の西側をまくと目指す釈迦ヶ岳がぐっと大きく迫り山頂に立つ釈迦像がかすかに望める。不動明王と役ノ行者を祀るお堂のある深仙の宿はゆるやかな斜面に松苔が一面の素晴らしい庭園であった。思わず寝転んで山気を吸い込む。いよいよ熊笹の波打つ釈迦ヶ岳への最後の登りにかかる。1000山を目前に、先生もよいしょよいしょとマイペースで登っておられる。10時45分、皆んなの歓声と拍手の中、大きなやぐらの下にもぐり込んで先生は1000山目の一等三角点」に左手でタッチされた。

「今西先生の1000山登山をお祝いして…」山口政一氏の音頭で高らかにバンザイ、感激の握手。冷やしてかつぎ上げて下さった缶ビールでカンパイ。新宮山彦グループからは別あつらえの美しい紫地の茶羽織が先生に贈られ女性二人に着せられてど気嫌であった。背中には祝、竜千山登頂と白糸のシシユウ文字が鮮やかだった。日本1000山登頂、この偉業を達成された先生に、山男としてお祝いの握手をしてあげて下さいと、何年ぶりかで参加をお願いした伊藤潤治先輩も先生と感激の握手を交された。本当にうれしい瞬間であった。等身大の釈迦像は、かって京都へもお迎えした岡田雅行氏が神通力を得て一気にかつぎ上げたという巨大なもので、土台の石組の側には吉野熊野国立公園の生みの親であり、その一生を自然保護に捧げられた故岸田日出男氏の碑が立てられている。新宮の原酒太平洋を頂戴し、岩坪五郎さんの背負子のクーラーからは氷がとり出されてオンザロックと先生を囲んで盃を交す。名残りのつきない山頂であったが、今日中に帰郷の人も多く、我々も先生とお別れして前鬼へと下った。残った先生らの一行は前鬼の宿坊にもう一泊され帰途、目下改築中の大台ヶ原大台教会に田垣内政一氏を訪ねられ秀ヶ岳を極めて帰京された。

この日早くも毎日放送テレビではNBSナウで先生の1000山登頂の模様を放映しており先生らも途中の喫茶店に立寄ってご覧になったそうである。

その夜からかねて予約準備中だった9月29日(水)京都ホテルでの祝賀会準備が本格的に具体化した。先生から頂戴した招へい者リストにさらに追加を入れて400人余への案内状発送を分担、ホテルの設営打合せ、諸準備を行い、切の9月10日を待って予定以上の出席回答をいただき出席者名簿の印刷、名札書き、日程細部の打合せを終えて当日を迎えた。

祝宴には西畑栄三郎日本山岳会々長、望月達夫同副会長をはじめ藤島 玄越後、佐藤敏彦岩手、柴田均二秋田、西沢健一熊本、松井辰弥岐阜とJACの各支部長、角倉太郎京都支部府佐連会長な

ど20人のお歴々がメインテーブルにずらり並ばれ200余人の出席のもと拍手で迎えるなかをステッキを片手に先生が入場され盛大な祝賀会が始まった。

四手井靖彦君の名司会で高木志茂子さんが花束贈呈、白鹿の鏡開きと会は運ばれ、西畑栄三郎会長から「人はそれぞれいろんな力を持っておられるが、今西さんはどこか魔力という力がある」と挨拶され、先生は「数を増やすために登るのではないが、あと200山はいける」と意気盛ん。また参会者に配られたB6版48ページにのぼる「一千山のしおり」について先生は「自分の登った山を自慢して人に見せぶらかすためではなく、これを見ていただきまだ私の登っていない山があれば誘ってほしいという願望から作ったものです」と説明された。このしおりは後日、出席願えなかった各位にも全員に郵送されたが、今や既に絶版となり、全国各地からの希望にもかかわらず手に入れようもない貴重品になりつつある。皆さんも大切に保存され参考にさせていただきたいと思う。

続いて毎日放送、松下電器山下俊彦氏の特別のご厚意によってナショナルビデオプロジェクターによりMBSナウ「今西博士1000山登頂」のビデオが壇上にしつらえられた両サイド2枚のスクリーンに映し出され会に色どりを添えていただいた。最後には出席者名簿に刷り込まれた「今西さんといっしょにうたった歌(八曲選)」を和崎洋一先生の歌唱指導で全員合唱、祝宴はクライマックスとなり先生も釈迦ヶ岳で贈られた紫の茶羽織、テンガロンハットスタイルで200人のテーブルに1人1人挨拶に廻られ、高木碯男氏の見本に合せて今西式バンザイ三唱、ヤッホーを送って盛会裡にお開きとなった。

ご満悦の先生には、1000山祝賀のこの日、すでに1011山を数えておられたのであった。

(一等三角点研究会報「聳嶺」第5号にも掲載)

## 京都山岳連盟30周年記念行事

花背スキー場

# 登山祭

大槻雅弘

花背の秋は又遅う。冬の雪一色に変わってススキが風に穂をなびかせている。少し高台より望むと、その白い穂は冬の雪にも思わせる。

10月14、15日 そのスキー場に老若男女が一同に集い、飲みや歌えやのお祭り、コモかぶりの4斗樽が岳連会長角倉氏の手で力強く打ち破られ、キャンプファイヤーの炎が一段と赤く空を染めた時はお祭りも最高潮に達した。

岳連での会議と京交内部での会議で、模擬店を「おでん屋」に決定した。当日に料理をしていたのでは良い味が出せないと思い、吉田君に手伝ってもらって前日から用意をした。気安く「おでん屋」にしよと言ったものの、いざ70人分程を作るとなると大変だ。そこで今後の参考の為に「おでん」の作り方を記しておく。

1. クラブの大ナベに水一杯入れ湯ガラで煮込む。(ホエーブス3台使用すると10分で沸湯す

る)約1時間。

2. 角ナベに水半分を入れコブにてダンを取る。約30分
3. 鶏とコブだしをミックスする。
4. くじらの油味(コロ)大きさは親指の太さ、長さは10cmぐらい。ちくわ1本を斜めに切る。及びコンニャクの三角形に切ったのをダンに入れ約3時間煮る。
5. 煮き終えたのをそのままダンにしたして一晩置く。

以上でおでんの手順は終りであるが、山へ運ぶ時は、ダンと中味を分けて運ぶ。苦勞して作ったおでんが当日売れるだろうかと心配したが、さすが時間をかけて作っただけあって、いざふたを開けてみると全部売切れという予想を裏切ったの大盛況であった。

各クラブとも趣向をこらし、おにぎり、焼そば、うどん、酒、ヤキトリ、お好み焼、しるこ、と色々店が出た。売切れて店じまいをしたのは京交が一番だったと思う。おかげで立派な屋台は「しるこ屋」に譲った。

30周年行事の最後にふさわしく、多くの人が集り、昔なつかしい友と酒を汲み交し、大いに歌い夜の更けるのも忘れ声は流れた。

山屋はそもそもお祭り好きだ。最近京交も行事的な山行がふえ、又参加者も祭りとなると多く集る。今回もファミリーを含め18名の参加者があったのはうれしかった。

他の岳連行事にも多く参加し、山のより多くの知識を得、今後とも岳連を盛り立てたいと思う。

参加者 宮本、岡田、鷲見、三橋、広瀬、武田、吉田、岡本、徳田、大槻、他8名

## 第1192回例会

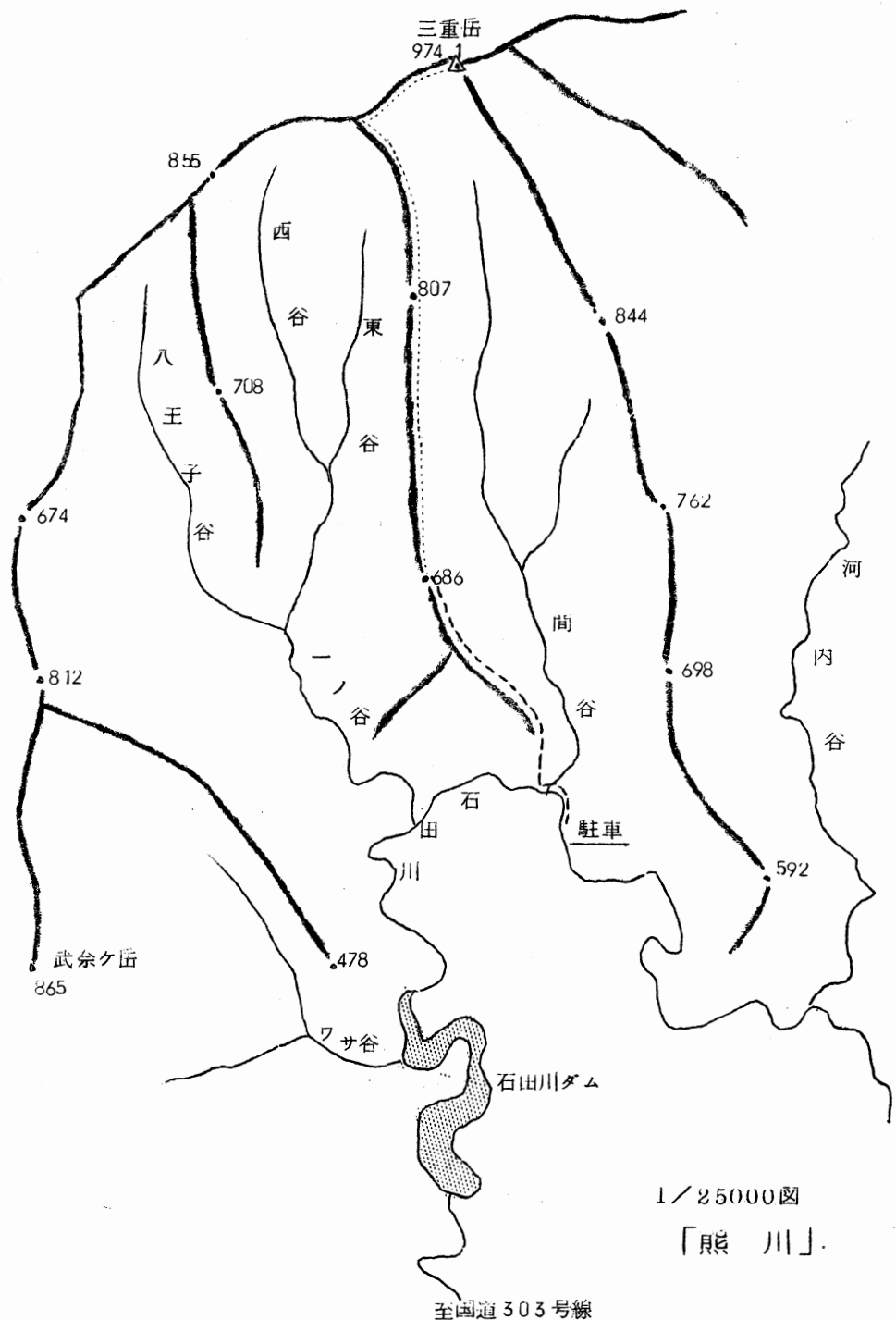
# 湖西最奥の山 サン ジョ 三重岳 974.1

広瀬 烈

10月18日(水) 琵琶湖大橋口6時に名誉部員の畑氏(久し振りだね)と共に田中さんの車で迎えに来てもらって一路交通量の少ない秋一番という快晴に恵まれた比良の緑と田園風景を楽しみながら湖西路を走った。

今回の起点となる角川に1時間少して着くことができた。ここでビールを準備すべく立寄ったが朝早く不在のため自動販売機にてジュースを仕入れカンバイの用意とする。

石田川にそって石田川ダム工事事務所を右に見て(水量少し水面見えず)林道に入りまもなく左手に最初の谷、ワサ谷橋を渡り(武奈岳への登山口のようにである)そして一の谷を過ぎ登路となる間谷橋(846.3竣工)を過ぎた地点約150m上部の離合場所にて駐車した。準備を整えて澄みきった秋空を見上げて間谷右岸の45°位の急斜面の植林地のジグザクの踏跡を登り高度をかせき



1/25000図  
「熊川」

至国道303号線

乍ら三重岳への嶺南尾根に出ると道もよく踏まれたような状態であった。途中、鹿の角を立てたような造形的な枯木の風景が太陽をいっぱい受けて光っていたのが印象深く素晴らしい。そして南西には武奈岳の稜線、河内谷の東にはゆるやかな弧を描いた滝谷山が又南には667mの濃緑の荒谷山がそれぞれ手に取るように見渡せあかとも自然の庭園を思わせる風情であった。なおも尾根道を進み行くとだんだん道が怪しくなって灌木帯に入った。この辺りが686mの地点である。少休止の後背丈2m位の石楠花やブナそしてクリの木の茂る潤帯樹の間を地図と磁石をたよりに田中さんは所々赤いテープを巻きつけながら我々は真北へと進む。あまり高度がかせげないと展望がきかない為、暑く変化に乏しい行程である。左、右の谷筋へ入らないよう注意しながら灌木の間をぬってさながら奥美濃の山行を思わせるようである。ところどころに小枝を折った跡が見受けられたがそれもときれときれで確認しずらくブッシュの中を進んだ。地図上の807mの地点は確認出来なかったが、この辺りだろうと尾根の狭い杉木立の鞍部を廻ったことを思う。さらに石楠花の郡落を抜けて高度を上げたところが950m附近である。

明るく台状であるが2m位の灌木原生林のため展望は只四方山肌ばかりが目に入り突然我々を楽しませてくれたことは、北にボリュームあるドーム状の今回目指す三重岳のピークラしき山谷が見えた事だった。これより稜線を西北へ振ってというより河内谷よりの深い谷のためでもあった。天増川よりの主稜尾根だろうと思われるので木に登り確認し稜線依いて東へ方向を変へ三重岳台地へ出ることが出来た。台地は東西に長く熊笹とブナの原生林で覆われた山地でいわばバイオニア的な岳人が入るだけのあまり人に踏れてない山稜であるように思える。

この原生林の中に三角点があるのだろうか？と探しながら東方へ向った。すると今迄とうって変わった明るい広々とした高原状の台地へ出て前方に北琵琶湖が一望、そしてその中央に箱庭のような何かありそうな竹生島がはつきりと展望できる所に三重岳(二等三角点)があった。早速三人で万歳をして今回の苦しかった山行をねぎらい祝福して田中さんは朝食、我々は昼食とした。丁度12時であった。この附近一帯は三重岳国有林で北面の山肌は巾広いゆるやかな稜線である。展望は西に天増川の深い切込の向りに木々の間より山谷が太陽をいっぱい受けて三十三間山、又東北へ目を移すと大御影山が望むことができた。その向りに野坂岳、その北に立石半島西方岳、一番手前に岩籠山の反射板が光っていた。快晴のライトグリーンに映へる山なみを見ていると時間を忘れそうなので山行記念にと我々のサインプレートを打ち付け写真を撮り早々に下山も急ぐことにした。

帰路は田中さんが目印にと付けた赤いテープをたよりに下山したが途中見失なったりして磁石を何度もみて確認しテープを探して喜んだり狂い咲きの石楠花を見たりして不安の交錯時間を過した。何はともあれ価値ある厳しいブッシュ山行でもあった。又この山は人里からは遠く、アプローチ長く、谷深く自然美が良く保たれ山好きな人のためにあるようだ。

最後に「三重岳、それは敦賀湾、若狭湾、琵琶湖が遠望できる味ある三重丸の山と云えよう。そして武奈岳国有林、滝谷山国有林等の三角点を結んだ頂点が三重岳(三重岳国有林)全て今津町長管理下の山でもある。

参加者 畑 照人、田中忠久、広瀬 烈



## コースタイム

琵琶湖大橋 6.00 - 今津 7.00 - 一角川村 (公会堂前) 7.15 - 石田川林道 (間谷橋) 7.30 ...  
間谷橋 (出発) 7.45 ... 686 ピーク 8.45 ... 807 ピーク 10.00 ... 三重岳 (三角点) 12.00  
出発 12.45 ... 往路下山 (間谷橋着) 16.20 ... 間谷橋発 16.30 - 琵琶湖橋 18.00

## 第1193回例会

# 由良ヶ岳

井 上 一 夫

朝から降り出した激しい雨も、岡田さんと落ち合う頃にはほとんど止み、丹後由良駅に着いた頃にはすっかり止んでいた。先程迄由良ヶ岳山頂を覆っていた雨雲もすっかり無くなり、天候は回復しつつあるようで、少なくとも雨の降る心配の無い空模様となったようである。

10月28日の午後から柳田さん、山元さんと私の三名は、柳田さん運転の車で雨の京都を出発した。初めは他の部員の人達とテントで夜営する予定であったが、YHに泊って身体を充分休めて登山に備えようという事で話がまとまり、一足先に出発する事になった。

我々が宿泊したYHは天の橋立の成相山の近くの天の橋立YHで、少し高台にあるので見晴らしが良くYHの庭から東南の方向に由良ヶ岳らしき山を見つけたが山頂からは雨雲を低く棚引かせていた。

10月29日 YHを8時半頃出発した時には激しい雨が降っており、今日の登山が危ぶまれたが9時過ぎに国道178号線の加悦鉄道踏切付近で岡田さんの車と落ち合った頃にはほとんど止んでいた。宮津駅前で弁当を買い、一向丹後由良駅へ向った。途中昨夜よりキャンプしている一行と9時半頃落ち合う事になっている所へ着いたが誰もいなく、もしかしたら先に駅へ行っているかもと由良駅へ行ったり、国民宿舎へも行ったが誰もいなかった。悪天候だからキャンプは中止で他の人は車で来るだろうと駅前で待つ事になり先程の激しかった雨の事もすっかり忘れて登山の準備をしながら汽車の到着を待った。汽車が着き徳野さん、篠田さん、広瀬さんがおりて来た。そこで、初めて本日の府民登山大会が中止だと知って少々ガッカリした。岡田さんの残念無念の顔をカメラにバチリと収めた。

人数は少ないものの天候もまずまずなので、岡田さんを除く6名で由良ヶ岳へ登る事となり、2台の車に分乗して登山口へ向った。登山口は国民宿舎「由良ヶ荘」の横にあり国民宿舎に車を駐車させてもらい出発した。よくふまれた道をトップを徳野さん、シンガリを広瀬さんの順に登り始める。由良ヶ岳について何も知識が無かったが、東と西にピークがあり、由良ヶ岳山頂は東峰にあり西峰の頂きが標高640mで、ここに三角点があるという事である。

山腹や尾根沿いの道を順調に高度をかせいでいった。30分程登り小休止をしたが、身体も程よく暖まり、ひさしぶりにかいた汗が快かった。トップの徳野さんのペースは一定していて歩き易い。

小休止の後登り始めたが、しばらくして山腹の急斜面に出た。見晴らしが良くジクザクの山道を少し登っては立ち止まり、沖に浮ぶ冠島や由良の集落を見下した。このあたりから雨のせいか大変滑り易くなった。植林地帯に入り中間鞍部に着く頃までには、汗と草に付いた鞆で全身が可成り濡れてしまい、それが身体の熱でもうもうと湯気となって立ち上がっていた。中間鞍部には出発して一時間後の12時丁度に着いた。小休止の後由良ヶ岳山頂へと向った。

山頂には由良の集落を見下すように小さな岨があった。記念撮影後昼食にする。山頂は360°の展望で、由良の集落や由良川を渡る国鉄の鉄橋、ずっと沖には冠島その西には丹後半島、くると後ろを見ると、南西に山頂の平らな大江山、南東に尖り帽子の長老ヶ岳、そして東に西舞鶴の市街地その向うに円錐形の青葉山、曇空のわりには大変視界が良かった。沖に浮ぶ冠島、山頂から見た感じでは直感で沖合い4kmぐらいの距離にしか思われなかった。しかし驚くなかれ実際は山頂よりの距離約2.5kmである。距離感覚を良くする必要ありと思った。

昼食休憩後山頂を出発した。中間鞍部に荷持を置き西峰の三角点を目指した。三角点まではなだらかな登りで、道も大体ははっきりしていたが、すすきや熊笹、茨などが道を覆いやぶ漕ぎの雰囲気味わう事が出来、切り傷だらけになった顔に汗がしみる。

西峰のピークは伐採してあり、二等三角点の標識がありコンクリート製の三角点があった。初めて見る三角点である。京都府下30山の登山記念の標識が木の幹に括られていた。広瀬さんがこの冬登った時に付けたものだという事でその時はこの高さまで積雪があったとの事である。1m20~30cmくらいであろうか。記念撮影後、三角点を全員が踏み万歳三唱した。由良ヶ岳登山の旗に6名の署名をして三角点付近に立てた。もう直ぐ雪に埋もれてしまおうが、入部以来初めての例会参加で誠に良い記念となった。

中間鞍部まで戻り下山の用意をする。登りと逆にトップ広瀬さん、しんがり徳野さんの順で下山を開始した。広瀬さんの下山の早さには舌を巻く。滑り易い道をサッサと降るが、我等若手3名はみごとに尻餅を付いてしまった。それに比べて広瀬さん、徳野さん、篠田さんは実に安定している。足にばかり力が入って体が堅くなり、半身になるので余計に滑る。植林地帯を過ぎ、登りに足を止めて景色を見た急斜面の道も辺りに気を配る余裕も無く通り過ぎた。やっとの思いで最初に小休止した場所まで降りた。これからは砂地の歩き易い道である。やれやれと一息付いたが、体力の消耗より膝や足首の疲れと精神的な疲れで少々ぐったりし石の上に腰を降した。小休止後一気に国民宿舎まで降りた。

広瀬さん、篠田さん、徳野さんは車で、そして私たち3名は深まる秋の由良ヶ岳を後に車で一路京都へ帰った。

#### コース・タイム

国民宿舎(由良ヶ荘) 11.00…12.00 中間鞍部 12.05…12.15 由良ヶ岳東峰 12.40…三角点  
西峰…中間鞍部 13.37…14.20 国民宿舎

## JAC岐阜支部例会

# 川上岳

宮 後 正 樹

山名の川上というのは、川の源の意でかおれ川浦とも書く。川上にある山のことで珍らしい名ではない。岐阜岳連編集の“ぎふ百山”にはこう解説されているが、川上と書いて「かおれ」と呼ぶ山名は関西では馴染が薄い。

所属している日本山岳会岐阜支部の秋季例会として川上岳の案内をいただき、連日残業のさ中ではあったが思い切って出かける。10月22日(土)の午後新幹線で横田君と同行の亀岡ちえさんと一緒になり歓談のうちに岐阜羽島に着く。一列車先に来られた土倉九三氏と合流して大垣山脇の国枝武喜さんのお迎えを受け車に乗せていただく。

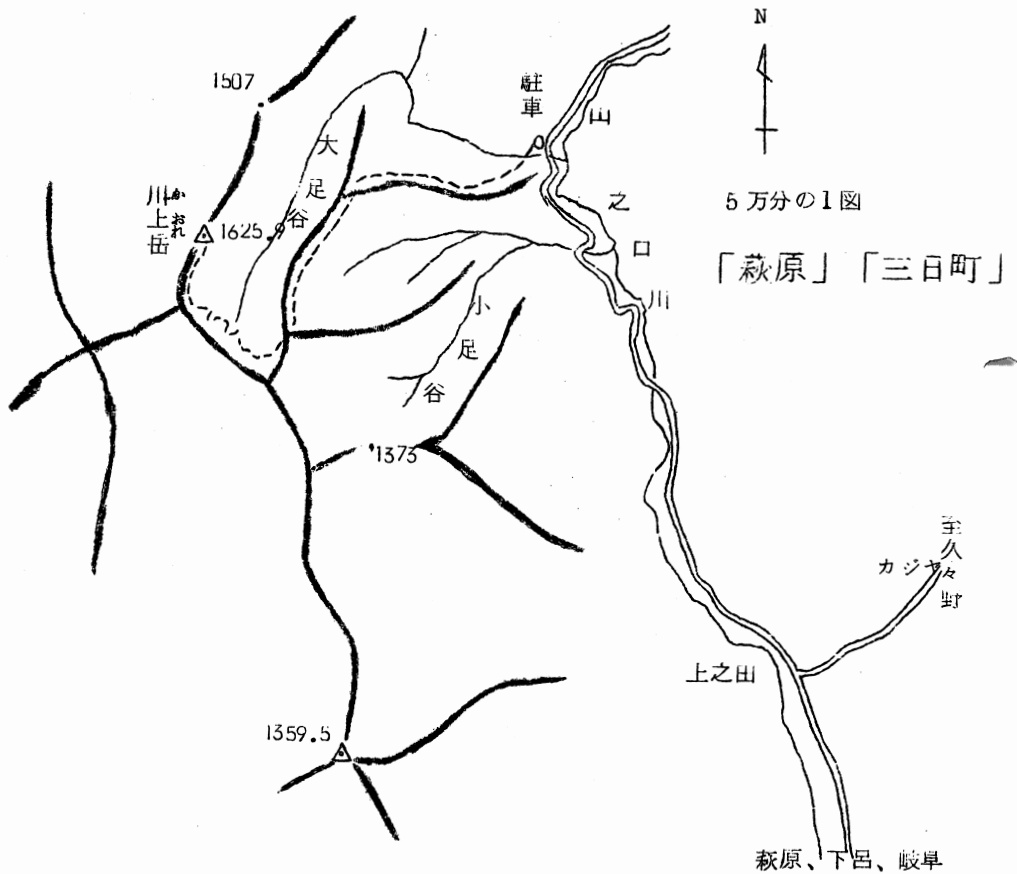
ルート41、高山本線とともに飛弾川沿いに中山七里をひた走りに走って下呂をバイパスで抜け、頂度日が暮れる頃ひだはぎわら、萩原荘に入る。松井支部長はじめ懐かしい面々とともに楽しい夕食に民謡の花ざかり。青い目の参加者、岐阜大のハンス・レーダー先生もお国ドイツの歌をご披露、大いに英気を養う。

翌朝は冷気ただよう7時、当日参加の藤井茂雄氏ら3人を加えて総勢28人、8台ほどの車に乗り合わせて北上、上呂から飛弾川、高山本線と分れて山之口川の林道をつめる。上之田の上流で右岸に渡り約40分で営林署の小屋のある登山口に着く。

新調されたJAC支部旗を先頭に5分ほどで大足谷を丸木橋で渡り登山路は尾根をジグザクに登っている。頂度色づき始めた紅葉に皆んなの顔が染る。約30分も登ると白い乗越、御岳が雲間に顔を出し思わず歓声が上る。萩原町の手によってつけられたという登山路は実にうまくつけ替えられており500m余りの高度差を全く楽しく登ることができた。標高1420m 辺り樹令数100年というドウダンツツジがめだつ台地で休憩、位山、船山を前景に乗越、御岳、さらに薬師、穂岳と楯の尖峰までが頭をもたげてご気謙の展望だった。

見事なブナ林と熊笹の中をトラバースぎみに辿りやがて大足谷の源流を大きくU字形に廻り込んで郡境尾根に乗り川上岳への登りにかかる。ブナと原生林の織りなす緩綿の上に新雪をいただいた大きな御岳の雄姿は正に一服の絵であり素晴しかった。この辺りドウダン、イヌツギ、赤い実をつけた常緑繙木やユズリハが庭園のように美しく配されている。登りつめた前衛峰からは正面に白山が近い。川上岳への稜線は兎ヶ馬場の異名どおり熊笹の中を平らかな一条の径が続いており北側の矮小灌木にはエビノシッポが光っていた。10時40分一等補点のある丸い山頂に着く。

萬歳三唱、カンパイもそこそこに360°の展望はぜいたくそのものだった。西方から高賀山、伊吹、鷲ヶ岳、荒島岳、大日、白山、三方崩山、前三方、猿ヶ馬場、栗ヶ岳、モミ又力山と懐かしい山また山、さらに真白い大日岳に剣、一きわ白い立山、薬師、野口五郎、笠岳と続き、楯ヶ岳、南



岳、唐沢岳から奥穂、前穂、乗鞍、御岳、さらに中央アルプスから恵那山と思いがけない素晴らしい展望にただ夢中の一時であった。

展望のあとはビールとエビノシッコのオンザロックとしゃれ込む。藤井さんの枝豆、食べ出したら止められない。高木碯男氏曰く、「フンドシの川流れ、タイにかかったら離れない」。離れられない頂上を後に12時ジャストヤッホーで下山とする。ドウダンの台地では地酒と穂高見物、朝からの好天に穂高の雪も少し消えたのか黒いヒダが見えていた。

車止めに2時前、時間も早いので船山へと車を走らせ船山スキー場を駆け登って狭い急なコンクリート道をローで登り切る。やがて中部電力舟山無線中継所と書いた大きなパラボランテナやヘリポートのある山頂に着く。三角点探しは昨日登った四手井君や西川君、吉村さんのアドバイスもあってパッチリ発見することができたが真赤に頭を塗られた二等三角点はいかにもはずかしそうだった。【コースタイム】 7.00 萩原荘発…7.44～8.00 登山口…8.30～8.40 休憩、乗鞍・御

岳を望む…9.20～9.37 台地 笠岳、権ヶ岳を望む…10.04～10.15 大足谷源流…10.40～12.00 川上岳頂上 一等補点…13.55～14.20 車止…15.30～16.00 船山 二等三角点

釈迦岳

## 大津ワングエル道

津 田 実

9月17日 5時30分起床、食事をしながらNHKの天気予報を見る。台風が近づいて来るらしい。然しその速度から夕方から降雨と判断、早速同行の佐々木さんに電話をすると早や家を出たとのこと、こらあかと慌て家を出る。恐い嫁はんの「こんな天気にも山へ行くなんて、死んで仕舞へ」との悪罵を後に7時過ぎに日ノ岡に着く。溝淵さんの姿が見えない。三橋さんが電話をすると天気が悪いから断念するとのこと。あいつは嫁はんにも弱いからなあと笑いつゝ一路比良へ直行する。地元山岳関係者の反対があったと云う道路工事場を避けて旧道を取る。(江若比良駅から此処迄歩いてくると山へ来たと云う実感が、又裏の安曇川筋から来るとふらふらになり、やれやれこれから未だ駅迄歩かんならんのかと想い出深い旧道である。)大津ワングエル道と大書した標識のある場所に到着した。実は此の標識は比良へ来る度におめにかゝっているのですが険悪な道と避けていました。と云うのは以前カネボウ新道と云う道を通って、先輩諸侯にシゴカレて雪山で、吾が輩の悪命も此れ迄と勘念させられたことがあったのでその時から負犬根性がついて恐い道は極力逃げて来たのですが、佐々木さんから此の道をとろうと云われたときは内心殺されると二の足を踏んだのですが、又もや何んとか成るわいと横着をきめて同意しました。自然木を渡した危なげな橋を渡ると細い道が続いている。それが真中が掘れてざんごうの中を歩くようだ。やっとなんとか尻筋に出る。なんと広い道ではないか、これは廃道にちがいない。先人の開いた道も恐るべく観光資本の為に廃道となって行くことは悲しいことだ。吾が輩如く泣いてみてもどうにもならないが此の道を知りてくれた大津ワングエルに敬意を表す。相当歩いたところ道の右側に大岩があって景色の好い処に来た。天気が悪いのでよく見えないが好天のときは絶景に違いない。何処かのコマーシャルではないが、今日も元気だ煙草がうまい。若い人と歩くと体力の衰えをいやと云う程思い知らされる。今年の冬三橋さんとあそこ道を歩いたときもこうだった。岩の下は木が繁っていて見えないが、相当深いようだ。若し許されるならば此の老残の身を樹林の中に埋没させたいと思う。阿呆な世迷い言を云うな、いざ行かんあの頂きへ。少し歩くと木の根登りを強制される。これは道ではない岩登りである。やっとなんとか登りつめると道に出た。立派な道標があって右へ降りると近江舞子へ出られるらしい。前方に山頂が見える地図を見るとめざす釈迦ではなさそうだ。峰を越えると又、峰が見えて来た。此れは比良ではない。信州の山へ来ているような錯覚を覚える。道は花こう岩のがれきで歩きにくい。ナイフ・リッジのような処へ出た。婦命頂来なむあみだぶつ、ふるえ乍ら越えると岩場へ突き当たった。見上げるような大スラブと吾が輩には見えた。三橋さんがトカゲのようにスルスルと登って行く。次は吾が輩の番だ。足もとはナイフリッジだし、此処で滑ったら先づおた仏はまちがいない思はずいゝ年して阿呆めとどなる。嫁はんの顔がうかぶ。ぐずぐずしていたら佐々木さんに気合

を入れられやっと登りついた。あゝ恐かった。天気が怪しい。先刻からのガスがこくなって米たので道を急ぐ。少し歩くといよいよ降って来た。雨具を付け向も道を急ぐ。左から登って来る道に逢ふ下りるとリフト駅とある。そこから5分程で三角点に到着。佐々木さんに時間を聞くと11時30分との返事、2時間30分で登ったことに成る。案内書には3時間とあったのでまづまづの成績で安心した。此処で例の如く御神酒を山神さまに捧げる儀式を平常ならば執り行なうのであるが此の雨ではどうにも成らぬ。比良ロッヂか北比良の駅か雨宿りの出来る場所を探そうと相談の結果、急いで降りることとした。降路は雨で濡れて滑りやすいので歩きにくい。パラボリアンテナのある処を過ぎたら左手にお宮が見えたので登って見ると此の山中に立派な建物で充分雨宿りが出来る。早速このお宮に御神酒を捧げお下りを載く。三輪さんが重いのに持って上って呉れたラジウスで熱いラーメンが載けたので寒さを感じない有りがと有りがと有り。あらためてお礼を云う。1時間程待ったが雨は止みそうにないので出発する。下りはシンジ谷を取る。雨も小降りになって助かる。シンジ滝の捲き道の手前で一服した。たしか京都府庁の職員の方と思うが暗夜道に迷い滝に転落して死亡されたと云うことを思い出す。その方かどうかは判りませんが、大きな石にレフリーがはめ込んであったのを思い出し探したが判らない。もう少し上であったかも知れない。「デキシーを愛し、山を愛した〇〇君此の地に眠る。」このような文字であったように思う。哀れ秋風よ 情あればつたえてよ 男ありて 一人此の地に眠る。 なにかの本にこんな文字が書いてあったと記憶する。佐藤春男のサンマの歌をアレンジしたものだと思うが、山に逝った若人の魂よ平安なれ。雨も止んだ出発とする。14時30分出発点に帰着した。

大津ワングル道 その由来は知らないが、心ないハイカーに犯されていない清浄な道で、静かな山旅をしたい岳人におすすめしたい道である。尾根歩きで水場はない。積雪期の初心者の一歩きは危険、岩の経験を要す。冬場以外はどなたでも行けます。我が山岳部の諸侯ぜひ一度歩かれては如何か、山歩きの源流の再発見のためにも。

## 大文字山

11月7日 晴後雨

畑 照 人

去年は確実に毎月地蔵詣りに行ったが今年はお家の事情もあり中たるみである。もう7月以米なのでどうしても行きたくなり、天気予報も雨たが行くと決める。蛸ヶ寺附近は秋のシーズンとて人出多い。行者の森へ詣る。いつ来ても掃き清められていて気持ちよい。花、水も新らしいのが供えてある。地元の大文字保勝会の人々の奉仕である。中心点の大御堂へ詣る。此所も下と同様で尚、ろうそくとお線香とが用意されており、参詣者の献灯に使用して下さいと書かれてあり嬉しくなる。然し皆様御注意下さい。堂の外周は心無い人のゴミで目も当てられぬ有様、保勝会の方々の清掃さ

れるお気持ちになって少しは慎んで貰いたいと思う。上の石段を上り切った所で、実にさわやかな若者のカップルに出会う。高校生位かな。向うから女の子が「お早ようさん、おじさんその靴楽ですか」と問う。「とてもよろしいね。手に持つと重いが歩くのには一番よろしい。雨が降るようだから気をつけてね」と返事して別れる。湿度が高くて京の街並みも雲の底の様である。いよいよ今日は雨降りだ。三角点到着。京都ライオンズクラブとユースホステル協会の共同で導標(円板)が要所要所に建てられてあり、かなり詳しく記されてあるが、マチックペンの為薄れて判読しにくい所もあり一寸残念である。それでも細い道や飲料水の場所まで教えてあった。忘れ石仏へ行く予定が下り口を廻り過ぎたので雨宮社へ直行する。社前の灯明台に大きなろうそくが点火されて供えてある。私も小さいのを2本献灯する。水も新らしいのが供えてある。こゝも雨宮社を美しくする会と誓われたベニヤ板に附近の道しるべが書かれてある。近頃自然環境を守る市民運動が盛んになっている事は誠に嬉しい限りである。大文字山を守る会もあるし、美しくする会もあり、市民の山としてほんとうに心強いことである。それにしても三角点の汚れは残念である。

池の谷地蔵へ詣り一服する。お茶も自分で入れて載く。おみくじ3番で又凶である。これでよいのかも知れぬ。紅葉はまだ分というところである。樹木に名前を書いたエフが着けてあるのは植物の実地指導の教材としたものらしい。自然は素晴らしいね。帰りに雨が降り出した。大師堂へ着くと私の名前を呼ぶ人がある。サテ誰かしら…。九条工場にいた小原君である。彼は若王子附近に住み、毎日のようにこゝまで上るらしい。今ブラ下りの棒を作っているんですと笑う。跡林車庫へ出ているという。何時何処で知っている人に出会うやら…。暫らく話して別れたが雨が少し強くなって来た。銀閣寺道からバスで帰宅する。

## 例 会 報 告

例会版	目的地	月 日	天候	担 当 者	参 加 者	記 事
1191	岳連主催登 山祭 花背 スキー場	10月14日 ～15日	曇	木局 大槻 雅弘	宮後 正樹 冢族3名 岡田 茂久 鷲見 敏一	冬しか訪ずれない花背スキー場はスキの穂がイッパイの高原で各岳連所属の団体が、ヤキソバ屋、おにぎり屋、うどん屋、しるこや、おでん屋(京交)等楽しいひとときを過した。
				広瀬 烈、岡本義弘、徳田真三、他2名 三橋 勉、吉田 武、武出喜久郎家族3名		
1192	三重岳	10月18日	晴	九条 広瀬 烈	畑 照人 田中 忠久	石田川源流に鎮座する湖西最奥の山三重岳、一度は登りたい山であった。天候に恵まれ4時間余の奮闘で頂上に達した。 別稿報告

1193	府民登山大会 由良ヶ岳	10月29日	雨 後曇	本局 (宮俊正樹)	徳野 治 広瀬 烈 篠田 勝美 岡田 茂久	朝、昨日来の雨が続いており、 天気予報も悪かったので一度は 中止を決めたが、徳野、広瀬、 篠田の3君が予定通り6.44分 の列車で出発した。丹後由良駅 前で前日迄の岡田、柳田、山元、井上4君と合流し、岡田君を除く6名で登 山を決行した。幸い雨も止み、暗間が見える程に天候も快復し、山頂の展望 を十分に楽しむことが出来たと云う報告であった。 詳細別稿報告
1194	石田・山下 氏退職記念 井ノ口谷の 頭	11月12日	曇 後雨	本局 宮俊 正樹	石田和男氏 山下周道氏 森下村重氏 伊藤衛治氏	心配された雨も下山するまでも ってくれた。山頂で！三角点で ！台杉群生地で！石田・山下両 氏のご退職のお祝いを！皆んな で元気で山に登ることの出来る 幸せを！喜びを！心の底から味 わった。こんなすばらしいこと は他にないと！ 詳細次号報告

## 雑 報

### ▲11月集会報告

出席者 本局 大槻、武田、坂井、三橋、岡田  
梅津 吉田

退職記念例会の打合せを行った。

〔入部〕 本局 63381 川原伝治 昭30.9.8生

伏、向島二ノ丸330-13

TEL 621-6403

予 告

### 新 年 会 兼 集 会

日 時 1月10日(水)

午後6時半より

場 所 鳴滝寮



帆布・瀝布  
テント・シート  
雨合羽

**木村工業有限会社**

京都市中京区ミブ車庫前  
TEL 801-5331(代)

名古屋営業所  
名古屋市西区児玉町7-30  
TEL 521-7541代~4

テニス用品  
スキー用品  
山用品

交通局の皆さん  
とりあえず 京菱へ  
満足のいくようにします

**京菱運動具店**

下・大宮松原上ル  
TEL 801-1331

お馴染みのスポーツ店

一般スポーツ用品・用具  
家庭用体操用具

購買証でご利用下さい

**KK 西沢スポーツ**

中・釜座御池下ル  
TEL 221-5739



真の専門店として  
好日山荘は前進しております  
山とスキー用具の  
ことなら御まかせ下さい

確信ある用具を  
確信ある価格で・・・  
**好日山荘**




河原町六角下ル東入  
TEL 241-1731

昭和53年12月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内 **京交山岳部**

**PRO SHOP**  
**山とスキー チョール**  
 輸入品とオリジナルの店  
 AM 12:00~PM 9:00 三条御幸町下  
 定休日 月曜日 (221) 6186

まかせて下さい…ネ  
 **と乃井一**  
 のことなら…


☆在庫豊富にとり揃えています  
 ☆山の道具は ぜひ 御相談下さい  
 山とスキー 専内店  
**ビッグホリイケ**  
 河原町店 上・河原町通丸太町東入  
 烏丸店 中・烏丸丸太町南下ル東側

**京都最高のアクアラング用品専門店**

- ウエットスーツ 製造直売
- 潜水器具 特別割引販売
- 現役プロダイバーと全日本潜水連盟公認指導員による  
 安全確実な潜水指導 (毎週木曜 夜7時より)

<p><b>ダイビングプロショップ</b>  <b>エツ〜ト</b></p>	<p>スキューバプロ(米) 京都総代理店          スキューバアポロ 京都総発売元          AMF ポイト(米) 京都総代理店          テクニサブ (伊) 京都総代理店</p>
--	--

603 京都市北区堀川通北大路上ル東側 TEL 075(492)8450

  
 山とスキーの店  
**京都 あるむ**  
 京都市中京区新町三条上ル  
 075-255-0288

**HIKE & CAMP**

この用具の事ならユニシが一番です!  
 御来店ありがとうございます  
 山とスキー レジャー スポーツ ショップ  
 そして  
 海の   
 中・二条通河原町西 TEL 231-1208